

地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム

竹林整備+ストーブを囲んでの座談会

ご協力

加藤英寿先生

2022年12月4日（日）

報告

座談会にワクワクしながら…まず竹林整備

「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、松木日向緑地の竹林整備活動5回目を実施しました。今回は加藤英寿先生にご協力いただき、地域ボランティアプログラム単独で活動を行いました。参加学生は11名（メンバー3名、サポーター8名）で、前回に引き続き、「地域交流について考える」をテーマに活動に取り組みました。

今回は竹林整備のみを目的とするのではなく、後半の座談会で使用するコップなども自分たちで作成することとしました。この取り組みによって「竹の利活用」を考えることもできました。各々が湯呑みサイズ、水筒サイズなどのコップを作成し、更に竹串なども作成して、座談会の準備もしていきました。作成している中で、切り口を斜めにすると花瓶ができるなどの創作に取り組んだメンバーもいました。

伐採は約1時間実施しました。今回は、切った竹をむやみに積むのではなく、どこに積むか、どんな風に積むかを考える回にもなりました。

体験を通して得たもの

竹林整備後温室付近に移動し、「座談会」の時間がスタートしました。加藤先生からロケットストーブの使い方を学び、まず、お湯を沸かし始めました。火の起こし方が分からない段階からレクチャーを受けスタートしましたが、火がしっかりとつき、良い竹の香りがして、持参したお芋、マッシュマロなどが焼けて来るに従い、前のめりで取り組む姿勢に変わっていきました。

今回、「焼き芋」を実際にするのは初めてというメンバー学生も多数いました。何事も経験・体験することで、初めて出てくるアイデアがあると思います。座談会が終わる頃には、「地域交流でもやってみたい」「次は〇〇をしてみたい！」というような話が飛び交い、笑顔一杯の座談会となりました。

竹林整備と座談会の様子



焼き芋が
できた！



今回の活動場所 & 座談会



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

まず自分たちが楽しみ、体験をする、そこから、地域交流が図れる場を作っていけるようになろう、ということで今回の開催について想像を膨らませながら、活動を終わりました。

参加者の声

- 地域交流のやり方がいま想像がつかなかった中参加したが、今回の活動を通していろんなやり方ができると視野が広がったように感じた。
- 伐採に関しては、まだ刃物を完全に安全に扱うことが出来なかったのでも、同じことを繰り返さないようにしたい。竹のコップはちょっと大きすぎたのでペン立てにして使おうかと考えている。
- 温室の存在を知りませんでした。加藤先生のだるまストーブの説明を聴けて良かったです。災害が起きた時にも、役に立つような内容でした。
- 加藤先生もおっしゃっていたように、実際に体験してみるとアイデアがより具体性を帯びると感じた。地域交流では、自分が拾ってきた竹を使って飲み物を飲むだけでなく、今日のように燃料を集めるところから始めると達成感があって面白いと感じた。また、大学祭では竹を使った食事の提供や竹製品の販売など、ただ切って終わるのではなく緑地の周知にもつながれたらいいと思った。ポラセンの方々、加藤先生、今日は素敵な活動をありがとうございました。
- 竹を利活用することがこんなにも楽しく、まだまだ様々な場面で使用できるのではないかとワクワクしています。
- やはり、開放的な場所で、一緒に食事をするという経験は仲良くもなれ、意見も出し合えると強く感じる事ができた。
- 新しい発見が多く良い活動でした。約2年の活動の中で一番楽しく充実していた印象です。
- 地域交流を開催する側がまずはやってみて、「これ楽しめるよね！」と感じることができた活動だったから。冬の時期は夏とは違った楽しみ（温かい飲み物を飲みながらストーブを囲んで囲んでる）を今回知ることができたのは、今後の地域交流イベント企画の大きな一歩になったと思う。
- 竹の利活用する方法など、活動日以外でも竹について学びたいと思った。事前学習などで言うだけかと思っていたこともあるが、実際にできるのだと知れてよかった。ただ時間がかかるものであるため、イベントとしてする際には準備や手順など事前に確認しておくべきことがたくさんありそうだ。